

## (4) 生活福祉の推進

生活の保障と自立の助長を目的とした生活保護制度、生活困窮者の個々の状況に応じた支援を行う生活困窮者自立支援制度、都区共同によるホームレスの自立支援、低所得者の生活安定に向けた支援、高齢者や障害者を始め、誰もが自由に行動し、社会参加できる「福祉のまちづくり」、質の高い安定した福祉サービスの提供を担う福祉人材の確保・定着など、対象者別の福祉を総合的・横断的に支える施策を進めていきます。

### 生活保護

生活保護制度は、憲法第25条の理念に基づく国民の権利であり、国が生活に困窮する全ての国民に、その困窮の程度に応じて保護を行い、健康で文化的な最低限度の生活を保障するとともに、自立を助長することを目的としています。  
(福祉局生活福祉部保護課)

#### 生活保護の仕組み

生活保護は、一般勤労世帯の消費支出などを基にして、厚生労働大臣が定める保護の基準によって保護が行われるものです。

保護は、生活扶助とその他の扶助（教育・住宅・医療・介護・出産・生業・葬祭）に分かれ、保護を受ける人の世帯構成や収入などの状況に応じて適用されます。保護費は原則として金銭で給付されますが、医療や介護は現物給付されます。また、保護施設に入所し保護を受ける場合もあります。

\* 保護施設には、救護施設（10か所）、更生施設（11か所）、宿所提供施設（10か所）があります（令和5年9月末現在）。

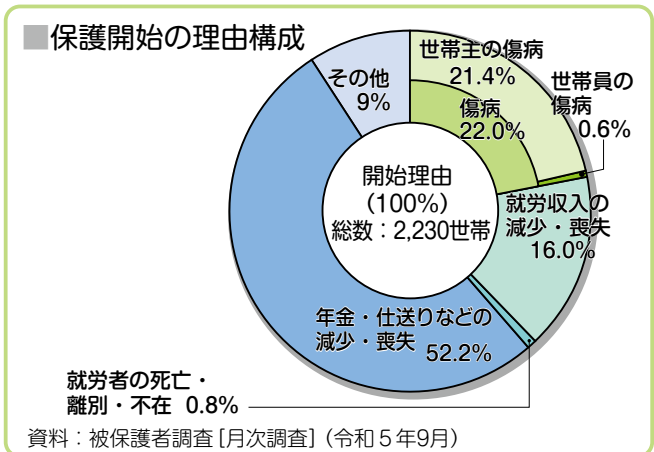
#### 〈生活保護の現状〉

都内で保護を受けている人は、276,250人、世帯数では231,436世帯、保護率（人口千人に対する比率）は19.6%です（令和5年9月現在）。

世帯類型別では、高齢者世帯が53.9%で最も多く、傷病・障害者世帯が25.7%、その他世帯が17.2%、母子世帯が3.2%です。また、単身世帯が85.7%と大半を占めています（令和5年9月現在）。

#### 生活保護の相談・申請

生活保護は、保護を必要とする本人又は、その扶養義務者、同居の親族の申請に基づいて開始します。相談や申請の受付は、原則としてお住まいの地域を担当する福祉事務所（島しょ部は支庁）になります。



### 無料低額宿泊所における居住環境改善への取組

社会福祉法第2条第3項第8号に規定される無料低額宿泊所は、生計困難者に対して無料又は低額な料金で居室を提供し、日常生活支援などを行っています。  
(福祉局生活福祉部保護課)

#### 無料低額宿泊所における居住環境改善への取組

東京都は、無料低額宿泊所の設備の規模及び構造並びに福祉サービスの提供の方法、利用者等からの苦情への対応その他の無料低額宿泊所の運営について「東京都無料低額宿泊所の設備及び運営の基準に関する条例」の基準に基づき、指導・助言を行っています。

#### 「日常生活支援住居施設」の認定

日常生活支援住居施設は、単独では居宅での生活が困難な状態である生活保護受給者を入居させ、その者の状態に応じた自立した日常生活及び社会生活を営むことができるよう利用される施設で、無料低額宿泊所の中から最低基準の遵守や人員の増配置等の一定の要件を満たすものを、東京都が認定します。

## 生活困窮者自立支援制度

経済的に困窮し、最低限度の生活を維持することができなくなるおそれのある方に対して、個々の状況に応じた支援を行い、自立の促進を図ることを目的としています。  
(福祉局生活福祉部地域福祉課)

### 生活困窮者自立支援制度の仕組み

本制度は、区市(町村部については都)が実施主体となり、複合的な課題を抱える生活困窮者を幅広く受け止め、包括的な相談支援を行う自立相談支援事業(必須事業)と、本人の状況に応じた支援を行う各支援事業(任意事業)があり、自立相談支援事業を実施する機関において策定される自立支援計画に基づき、各種支援が行われます。

#### (必須事業)

##### ①自立相談支援事業

就労その他の自立に関する相談支援、自立に向けた支援計画の作成等を実施します。

##### ②住居確保給付金の支給

離職等又は休業等により収入を得る機会が減少し、離職等と同程度の状況で住居を失った方、又は失うおそれのある方に対し、家賃相当額を有期で給付します。

(任意事業) ※任意事業の実施については、自治体によって異なります。

##### ①就労準備支援事業

一般就労に必要な訓練を、日常生活自立、社会生活自立段階から有期で実施します。

##### ②一時生活支援事業

住居のない方に対して、一定期間宿泊場所や衣食の提供等を行います。

##### ③家計改善支援事業

家計状況の把握や家計改善に向けた意欲の向上を図る支援、貸付けのあっせん等を行います。

##### ④子供の学習・生活支援事業

生活困窮世帯の子供に対して、学習支援、生活習慣・育成環境の改善、保護者への進学助言等を行います。

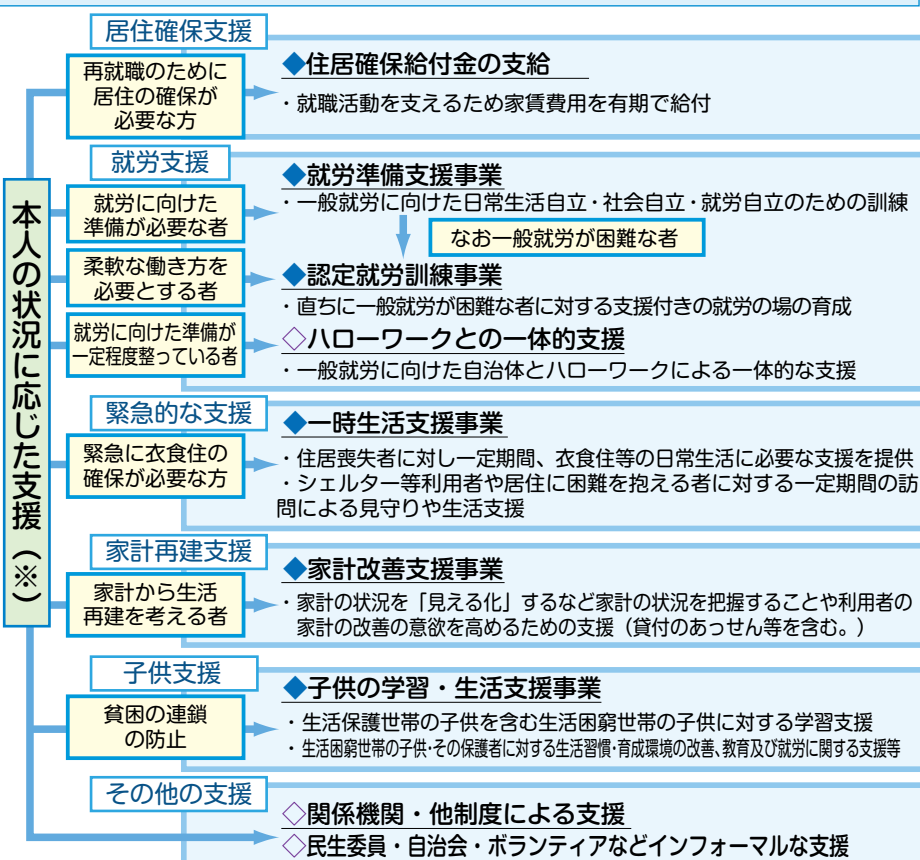
## 生活困窮者自立支援制度

### 包括的な相談支援

#### ◆自立相談支援事業

- ・訪問支援(アウトリーチ)も含め、生活保護に至る前の段階から早期に支援
- ・生活と就労に関する支援員を配置し、ワンストップ型の相談窓口により、情報とサービスの拠点として機能
- ・一人ひとりの状況に応じ自立に向けた支援計画を作成
- ・地域ネットワークの強化、社会資源の開発など地域づくりも担う。

※右記は、法に規定する支援(◆)を中心に記載しているが、これ以外に様々な支援(◇)があることに留意



上記に関する相談や申請は、最寄りの区役所、市役所、町村については西多摩福祉事務所及び各支庁が行っています。

## 生活福祉資金貸付事業

所得の少ない世帯、障害者や介護を要する高齢者のいる世帯に対し、資金の貸付けと必要な相談支援を行うことにより、その世帯の生活の安定と経済的自立を図ることを目的としています。（福祉局生活福祉部地域福祉課）

### 総合支援資金

失業等、日常生活全般に困難を抱えた世帯に対して、生活の立て直しのために継続的な相談支援と生活費や一時的な資金の貸付けを行う制度です。

### 福祉資金

日常生活を送る上で、又は自立した生活を送るために、一時的に必要なであると見込まれる資金の貸付けを行う制度です。

### 教育支援資金

所得の少ない世帯の方が高等学校、大学等へ入学する際に必要な資金や就学に必要な資金の貸付けを行う制度です。

### 不動産担保型生活資金

一定の居住用不動産を有し、将来にわたりその住居に住み続けることを希望する低所得の高齢者世帯に対して、当該不動産を担保として生活資金の貸付けを行う制度です。

※上記各資金の相談や貸付申請は、お住まいの地区の社会福祉協議会で受け付けています。

## 新生活サポート事業

経済的理由によって生活困難な状況にある人たちに対して、生活相談を行うとともに、必要に応じて資金を貸し付けることにより、生活を支援する制度です。（福祉局生活福祉部地域福祉課）

### 多重債務者生活再生事業

生活再生への意欲があるにもかかわらず、多重・過剰債務で生活困難な状況にある人たちに対して、相談体制を整備するとともに、必要に応じて資金の貸付けを行います。

### 自立生活スタート支援事業

#### 児童養護施設退所者等に対する自立支援資金貸付事業

社会的養護の必要な児童等が児童養護施設等を退所後、就学・就職するに当たり安定した生活基盤を築き、円滑な自立を実現するために必要な資金の貸付け及び相談援助を行います。

## ひきこもりに係る支援事業

ひきこもりの状態にある方やその御家族に対する相談窓口を設置するとともに、講演会の開催、リーフレットの配布、広告事業等により、普及啓発を行っています。また、身近な地域において切れ目のない支援体制が整備されるよう区市町村を支援します。（福祉局生活福祉部地域福祉課）

## 地域生活定着促進事業

高齢又は障害により、福祉的な支援を必要とする犯罪をした人等に対し、刑事司法関係機関、地域の福祉関係機関等と連携・協働しつつ、刑事上の手続又は保護処分による身体の拘束中から釈放後まで一貫した相談支援を実施することにより、その社会復帰及び地域生活への定着を支援します。（福祉局生活福祉部地域福祉課）

## 低所得者・離職者対策

生活に困窮する低所得者や離職者が将来に向かって明るい展望を持ちながら安定した生活ができるよう、国や区市町村等と連携して効果的な施策を展開していきます。（福祉局生活福祉部地域福祉課）

### 子供サポート事業立上げ支援事業

生活困窮世帯の子供を支援する民間団体による事業の立上げ支援や、民間団体間の連携促進に取り組む区市町村を支援し、子供の学習・生活支援事業や子供の居場所創設事業（P.8 参照）の充実を図ります。

### 受験生チャレンジ支援貸付事業

収入が一定水準以下である世帯の子供たちの進学に向けた取組を支援するため、中学3年生・高校3年生又はこれに準じる方（高校中途退学者、高卒認定試験合格者、定時制高校4年生、浪人生等）を養育している世帯に学習塾等の受講料や高校・大学等の受験料を無利子で貸し付けます。高校や大学等に入学した場合は返済が免除になります。

### 住居喪失不安定就労者・離職者等サポート事業

住居を失い、インターネットカフェや漫画喫茶等で寝泊りしながら、不安定な仕事に就いている方や離職者等を対象として、区市等と連携して各相談業務を実

施しています。①生活環境や健康状況等を把握する生活相談、②民間賃貸物件の情報提供、賃貸借契約支援、家賃保証支援、③職業相談、職業紹介、④住宅資金や生活資金の貸付け、⑤介護資格取得支援などです。これらのサポートを通じて利用者の自立した安定的な生活の促進を図っています。

### フードパントリーへの支援

住民の身近な地域に「フードパントリー（食の中継地点）」を設置し、生活困窮者に対して食料提供を行うと同時に、生活困窮者から生活の状況や困りごと等を聴くことで、適切な相談機関等につなぐ取組を行う区市町村を支援します。加えて、フードパントリー事業者間の連携を促進させることで、生活困窮者への食料提供を通じた地域の支援体制の充実に取り組む区市町村を支援します。

また、食料価格が上昇する中でも、生活困窮者に対して食料提供を行うとともに、適正な相談支援機関等につなぐ取組を行う区市町村社会福祉協議会・民間団体等を支援します。

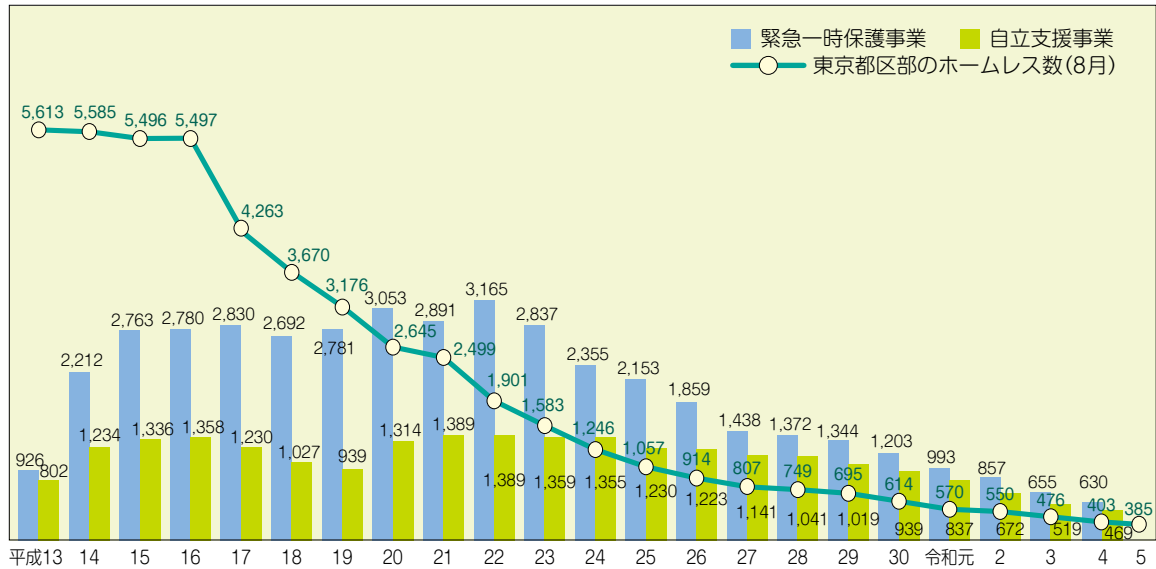


## ホームレス対策

ホームレス問題は、ホームレスの方それぞれの個人的要因と、景気の低迷、地域コミュニティの希薄化などの社会的要因が重なって生じたものであり、問題の解決には福祉・就労・住宅・保健・医療などの分野にわたって総合的に取り組むことが必要です。東京都は、特別区と共同してホームレス対策に取り組んでいます。

(福祉局生活福祉部保護課)

■各事業の利用者数と23区内のホームレス数の推移



資料：福祉局「路上生活者概数調査」

(注) 緊急一時保護事業を行う緊急一時保護センターは、平成22年度から自立支援センターに順次統合し、平成24年度に統合廃止。

### ホームレスの現状

23区内のホームレス数は、都区共同事業である自立支援システムや生活保護の適用などにより、平成11年度の5,798人をピークに以後漸減傾向にあります。令和5年8月調査では、対前年比18人減の385人となりました。一方、高齢層におけるホームレス生活の固定化・定着化の進行や路上生活まで至っていないホームレスとなるおそれのある方の存在などが課題となっています。

### 自立支援センター

都は特別区と共同して、ホームレスの自立支援システムを構築し、早期の社会復帰に向けた自立支援に取り組んでいます。

○緊急一時保護事業（心身の健康回復とアセスメント）  
ホームレスを一時的に保護し、2週間程度食事などの提供、生活相談を行い、以後の自立支援事業につなぎます。

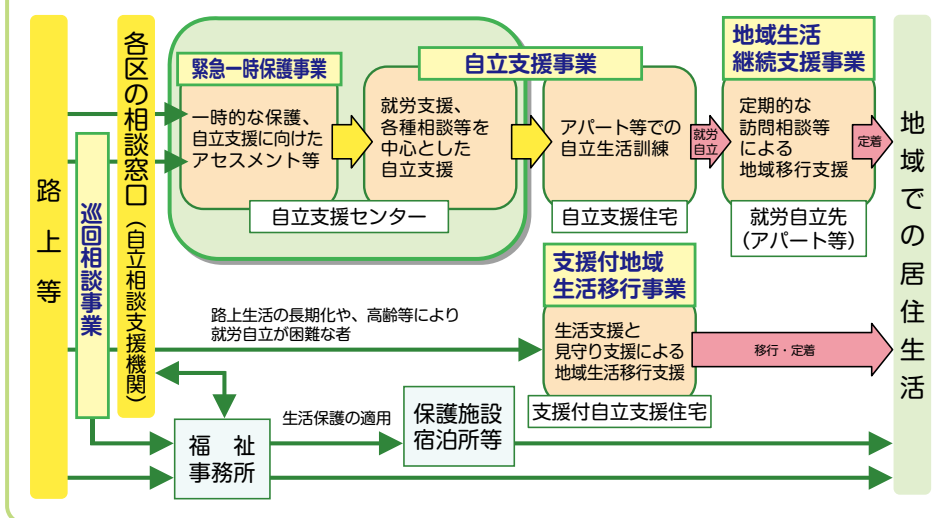
◇入所累計630人、退所累計636人  
(令和4年度実績)

○自立支援事業（自立支援プログラム）

就労による自立を目指して緊急一時保護事業から通算して6か月程度入所し、生活相談や健康相談、ハローワークと連携した職業相談などの支援を行います。

◇入所累計469人、退所累計468人  
⇒就労自立者239人  
(令和4年度実績)

■路上生活者対策事業の概要



## 巡回相談事業

ホームレスが生活している場所を巡回し、面接相談を行い、自立支援センターなどのホームレス対策事業の紹介を行っています。また、自立支援センターなどの退所者を対象に、生活状況の把握及び必要に応じた相談支援などのアフターケアを行い、再び路上生活者に戻らないよう支援しています。

## 支援付地域生活移行事業

路上での生活が長期化し、高齢化したホームレスに対し、重点的な相談を行うとともに、一時的なすまいにおいて、地域生活へ移行するために必要な見守りなどの支援を行うことにより、路上生活からの脱却を支援します。

## 山谷対策

台東区、荒川区にまたがる、いわゆる「山谷地域」の簡易宿所密集地を中心に生活している日雇労働者などに対して、雇用の安定、福祉や保健衛生の向上などに取り組んでいます。  
(福祉局生活福祉部保護課)

### 山谷地域の変容

山谷地域の簡易宿所の宿泊者数は、現在はピーク時の4分の1以下になっています。平均年齢は67歳を超えるなど高齢化が進行して、生活保護を受給する人の割合が増えています。

### 城北労働・福祉センター

関係機関と連携して、山谷地域の日雇労働者への職業紹介・労働相談・生活相談・医療相談・応急援護などを実施しています(運営は公益財団法人東京都福祉保健財団)。

電話 03-3874-8089

## 戦争犠牲者への援護など

先の大戦における戦争犠牲者に対して、追悼式を行うとともに各種の援護を行っています。

(福祉局生活福祉部企画課)

### 追悼式

先の大戦で戦没された方々の慰霊を行うとともに、関係御遺族を慰藉するため、毎年、戦没者追悼式(8月15日)、南方地域戦没者追悼式(10月)、硫黄島戦没者追悼式を行っています。

### 旧軍人などに対する援護

旧軍人や戦没者の遺族、戦傷病者など戦争の犠牲になった方に対して、恩給や年金の相談・申請受付などを行っています(決定は総務省や厚生労働省が行います。)。戦傷病者に対しては、戦傷病者手帳を交付して、療養の給付や補装具の支給を行っています。

また、終戦時東京都に本籍のあった旧陸軍軍人・軍属の軍歴証明書を交付しています。

### 中国帰国者等に対する援護

中国などからの永住帰国者に対しては、都庁内に中国帰国者の相談窓口を設置し、中国語の相談通訳員が各種の相談に応じています。

平成20年度からは中国帰国者等の老後の生活の安定を図るため、区市(町村部は都)において支援給付等を実施しています。窓口には、中国語の話せる支援・相談員が配置されています。

## 被災者への支援

東京都では、区市町村や関係機関と連携した予防・応急対策や復旧を行うため、全庁的な地域防災計画、東京の防災プランなどを策定するとともに、各局においても活動マニュアルを整備するなど、災害に対して迅速に対応できる体制整備に努めています。

### 災害救助用物資の備蓄・提供

災害の発生に備えて、乳幼児用として調製粉乳・乳児用液体ミルク・哺乳瓶を備蓄し、災害発生時には速やかに区市町村へ提供します。

また、民間事業者と「災害時における物資の調達支援協力に関する協定」を締結しており、災害時には、乳児用液体ミルクを緊急に調達し、提供します。

(福祉局子供・子育て支援部家庭支援課)

### 被災者への生活支援

自然災害によりその生活基盤に著しい被害を受けた世帯に対し被災者生活再建支援制度を実施しています。また、住宅、家財などに被害を受けた世帯に対し、生活の立て直しに資するために災害援護資金の貸付けを行います。

(福祉局生活福祉部企画課)

## 福祉局・保健医療局職員による災害対策

応急救助活動として、救助物資の輸送や配分、避難者の移送や避難所の運営支援、高齢者や障害者などの要配慮者対策に係る支援、義援金の募集や配分などを担っています。

## 災害時要配慮者対策の推進

区市町村が行う、要配慮者支援体制整備や緊急性・特殊性を有する在宅人工呼吸器使用者の災害対策を支援し、地域の取組を推進していきます。

(福祉局総務部総務課、保健医療局保健政策部疾病対策課)

## 福祉のまちづくり

東京都では、高齢者や障害者を含めた全ての人が、安全、安心、快適に暮らし、訪れることができるまちづくりを推進しています。

(福祉局生活福祉部企画課)

### 福祉のまちづくり条例

条例では、建築物、道路、公共交通施設などを「都市施設」として定め、そのうち公共性の高いものを「特定都市施設」として、新設又は改修の際に施設を円滑に利用できるよう「整備基準」を遵守することとして届出を義務付けています。また、整備基準に適合する都市施設には、請求に基づき、「東京都福祉のまちづくり整備基準適合証」を交付しています。



### 福祉のまちづくり推進計画

福祉のまちづくりに関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、「東京都福祉のまちづくり推進計画 令和6年度～令和10年度」を策定し、区市町村、事業者、都民等と協働して、福祉のまちづくり施策の推進に積極的に取り組んでいます。

### 福祉のまちづくりの普及推進

福祉のまちづくりは、行政、事業者、都民が相互に協力して推進することが不可欠です。このため、「東京都福祉のまちづくり推進協議会」の運営、「福祉のまちづくり功労者に対する知事感謝状の贈呈」等を行っています。

また、福祉のまちづくり条例に適合した施設整備のほか、心のバリアフリーに向けた普及啓発や情報バリアフリーの充実など、区市町村が地域の実情に応じて主体的に実施するハード・ソフト両面の取組に対して支援しています。

### 心のバリアフリーの理解促進

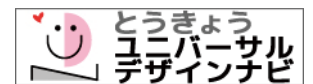
心のバリアフリーが浸透した共生社会の実現に向け、都民の理解が広がり実践に繋がるよう、ホームページやハンドブック等による普及啓発や、障害者等用駐車区画の適正利用の推進、従業員への啓発等に取り組む「心のバリアフリーサポート企業」との連携、普及啓発ポスターコンクール等を行います。

HP <https://kokoro.metro.tokyo.lg.jp>

### とうきょうユニバーサルデザインナビ

高齢者や障害者を含めた全ての人が、外出時に必要な情報を容易に入手できるよう、都内の施設や交通機関等に関するユニバーサルデザイン情報及びバリアフリー情報を集約したポータルサイトを開設しています。

HP <https://www.udnavi.tokyo/>



### ユニバーサルコミュニケーション

#### 技術の推進

新規

東京2025デフリンピックも見据え、ユニバーサルコミュニケーションに係る最新のデジタル技術を活用し、区市町村における情報バリアフリーの取組を促進します。



## 福祉人材の確保・定着・育成

東京都では、今後の高齢者の増加等に伴う福祉人材の需要増加に対応するため、福祉人材の確保・定着・育成に取り組んでいます。(福祉局生活福祉部地域福祉課)

### 社会福祉士養成施設等の指定

社会福祉士、介護福祉士、介護福祉士実務者、社会福祉主事の養成施設等を指定しています。都が指定した養成施設等の一覧は、ホームページに掲載しています。

HP <https://www.fukushi.metro.tokyo.lg.jp/kiban/koza/youseishisetsutouichiran.html>

### 介護員などの養成研修の指定

介護員、居宅介護従業者及び移動支援従業者を養成する研修事業者を指定しています。都が指定した研修事業者一覧は、ホームページに掲載しています。

HP <https://www.fukushi.metro.tokyo.lg.jp/kiban/koza/shiteizigyousuyaichirann.html>

### 東京都福祉人材センター

福祉人材の確保・定着・育成の総合拠点として、福祉分野の就職相談・就労あっ旋のほか、福祉の仕事に従事する方が安心して働き続けるための支援や、福祉人材のすそ野拡大のための普及啓発など、様々な取組を行っています。

#### ○福祉人材の確保

福祉分野の無料職業紹介事業を中心に、合同就職説明会・面接会の開催、専門相談員によるキャリアカウンセリングや就職活動に役立つセミナー等を行っています。

#### ○福祉人材の定着支援

福祉の仕事に従事する方を対象に、職場の悩み等を相談できる相談窓口を設置するとともに、メンタルヘルス等に関する講習会を開催しています。

#### ○福祉人材の育成支援

小中規模の福祉施設・事業所に研修講師を派遣するほか、施設・事業所が自ら職場研修を企画・実施できるようアドバイスをしています。

#### ○福祉人材確保に向けた普及啓発

中学・高校への訪問セミナーや、次世代を担う高校生を対象とした福祉施設での職場体験を実施するとともに、小中高校の教員に福祉の仕事の魅力や重要性を伝える動画を発信し、福祉の仕事に対する興味関心を高めていきます。

HP <https://www.tcs.w.tvac.or.jp/jinzai/>

電話 03-5211-2860

### 福祉の仕事イメージアップキャンペーン

福祉の仕事への興味関心を高めるため、WebやSNS広告の活用等により、福祉の仕事の魅力等を発信するキャンペーンを展開します。

HP <https://www.fukushijinzai.metro.tokyo.lg.jp/hello-essential-work/>

### 介護福祉士修学資金等の貸付

#### ○介護福祉士等修学資金の貸付

介護福祉士等の国家資格取得を支援するための貸付制度で、社会福祉施設で原則5年間介護業務等に従事した場合に返還が免除されます。貸付けは、東京都福祉人材センターで行っています。

#### ○離職介護人材再就職準備金の貸付

離職した介護人材で、一定の知識・経験がある方が介護職員として再就職した場合、必要な資金を貸し付けます。社会福祉施設で2年間介護業務等に従事した場合に返還が免除されます。貸付けは、東京都福祉人材センターで行っています。

#### ○介護・障害福祉分野就職支援金貸付事業

一定の研修を修了し、他業種等から新たに介護・障害福祉分野への就職を目指す方に対し、必要な資金を貸し付けます。社会福祉施設等で2年間、介護業務等に従事した場合に返還が免除となります。貸付は、東京都福祉人材センターで行っています。

#### ○福祉系高校修学資金貸付事業

福祉系高校に在学する方で、卒業後、都内で介護業務等に従事する意思のある方に対し、必要な資金を貸し付けます。卒業後、社会福祉施設等で3年間、介護業務等に従事した場合に返還が免除となります。貸付は、東京都福祉人材センターで行っています。

#### ○福祉系高校修学資金返還充当資金貸付事業

福祉系高校修学資金の貸付を受けた方で、卒業後、介護以外の障害福祉等の分野に従事した方に対し、福祉系高校修学資金として借り受けた金額と同額を返還金として補填充当します。卒業後、社会福祉施設等で3年間、介護以外の障害福祉等の分野に従事した場合に返還が免除となります。貸付は、東京都福祉人材センターで行っています。

### 「ふくむすび」による情報発信

福祉職場に関心のある方に、東京都福祉人材情報バンクシステム「ふくむすび」(Webサイト)への登録を促し、福祉事業者の職員募集や職場環境に関する情報、都・区市町村の資格取得等に関する支援策や研修・イベント等の情報を発信します。

### TOKYO 働きやすい福祉の職場宣言事業

都が定める働きやすさの指標となるガイドラインを踏まえた職場環境の整備に取り組み、「働きやすい福祉の職場宣言」を行う事業所の情報を公表し、福祉人材の確保・定着を図ります。



## 福祉の仕事就業促進事業

新規

職場体験からマッチング、就業、定着までを一貫して支援することにより、求職者と求人事業所双方のニーズに応え、未経験者等の福祉分野への入職・定着を促進します。

## 民生委員・児童委員

都内の各地域に配置され、地域で暮らしている高齢者・障害者、子育てに悩んでいる方、生活に困っている方などの福祉に関する様々な相談に応じ、必要な支援を行っています。

また、福祉事務所や児童相談所など関係機関に対する協力活動も行っています。

民生委員は児童委員を兼ねており、児童問題を専門的に担当する主任児童委員も配置され、児童虐待への対応など子供たちの健全育成に力を注いでいます。

都は民生委員・児童委員と連携し、高齢者の見守りや子供と家庭に関する支援体制の強化などに取り組んでいます。

東京都民生委員・児童委員の定数は10,361人、そのうち785人が主任児童委員です（令和4年12月現在）。

民生委員・児童委員の家の目印は、青い門標です。



民生委員・児童委員の門標

## 民生委員・児童委員活動環境整備事業

各地域で民生委員・児童委員に協力して活動する民生・児童委員協力員の配置、班体制等支え合いの仕組みの立ち上げ・運営、パンフレットや活動マニュアルの作成等、民生委員・児童委員の活動環境の整備に資する取組を行う区市町村を支援します。



民生委員・児童委員キャラクター ミンツー

## 地域サポートステーション設置事業

地域住民同士のつながりを醸成し、地域の課題を解決していくための気付きが生まれる場を整備するために、世代や属性を超えて住民同士が交流できる多世代交流拠点の設置に取り組む区市町村を支援します。

## 東京都福祉人材確保対策推進協議会

新規

福祉関係団体等が参画する協議体を設置し、福祉人材の確保・育成・定着に向けた取組の方向性や具体策を検討し、施策の推進に繋げるとともに、福祉人材の魅力を発信するムーブメントを創出します。

（福祉局企画部企画政策課）

福祉人材の確保・定着・育成については、以下も参照ください。

保育人材の確保 ..... P. 7  
介護・医療人材確保のための支援 ..... P.26  
（障害福祉）サービスを担う人材の養成・確保 ... P.43